

ゆうがく



2026 JUN.

vol.90

新任客員教員のごあいさつ

この4月から客員教員を務めることになりました池田弘乃(いけだ・ひろの)と申します。山形大学人文社会科学部の教員です。

法哲学という学問を専攻しています。「法」に関する哲学的研究であれば、それは何であれ法哲学であると言ってよいと思いますが、実際に、法哲学という名の下で研究されていることは、実に多彩です。

「法」といっても、色々な在り方をしています。法律のように、誰かが(現在の日本では国会が)特定の時点で意図的に制定したルールもあれば、慣習のように、誰かが決めたわけではなく、時間が過ぎる中でいつの間にか多くの人々の行動を拘束するようになったルールもあります。

さらに、人々が気づかないうちにその行動を誘導するような仕組みも世の中にはあります。有名な例として、「公園のベンチの真ん中に仕切りのように作られた手すり」は、一見、肘をかけるためのものですが、その実、そのベンチで人が寝転ぶのを防止する(寝にくくする)という機能を発揮します(ホームレスを排除する目的に使われることがあります)。「ベンチには寝るな!」という言葉で呼びかけるのではなく、そもそも「寝る可能性」自体を困難にする物理的な規制です(アーキテクチャと呼ばれたりします)。

私自身は、法哲学という名の下で、主にジェンダーやセクシュアリティといった人間の性に関わる法制度を研究してきました。性に関わる法制度についても、

法律だけではなく、人々の慣習や社会規範、そしてアーキテクチャが、それぞれ複雑に絡み合いながら人々の行動を左右しています。面接授業や学びのサロンで、現在の日本が抱えている具体的な課題について、皆さんと共に考えていくことができれば幸いです。

2022年からは、仲間の市民や学生たちと、“やまがたカラフルパレード”という多様な性がより尊重される社会づくりをよびかけるパレードに参加しています。今年も秋に第5回目を開催する予定です。

蛇足ながら、趣味は、お笑いを見たり聞いたりすることです。落語、漫才、漫談、コント等々どれも好きですが、特に“にぼしいわし”と“エレキコミック”のファンです。もちろん、ただただ笑うために見ているわけですが、お笑いが扱う話題や、何をどう笑うかについての時代的な移り変わりに、ときどきハッとさせられることがあります。性の扱いや女性の「芸人」に対する社会的なまなざしの在り方にも、しばしば思いを馳せることがあります。大げさに言えば、孤独な夢想到に陥りがちな私にとって、世相を垣間見る時間になっているのかもしれません。趣味がお笑いの割には、講義が抱腹絶倒のものでは全くない点については、あらかじめご容赦いただけますと幸いです。

池田 弘乃

山形大学学術研究院
教授(人文社会科学部)
専門:法哲学、ジェンダー・セク
シュアリティと法



学びのサロン

「激動の中の家族・ジェンダー・法」

家族やジェンダーに関わる問題について、裁判例や論文・書籍を読みながら考えていきます。

新任客員教員のごあいさつ

学問の多様性と「生活のOS」としての作業療法

2026年4月より、放送大学山形学習センターの客員教授を拝命いたしました、藤井浩美と申します。

私は作業療法士であり、山形県立保健医療大学が発足した2000年4月から今日に至るまで、四半世紀にわたり作業療法士養成の教育と研究、そして臨床指導の道を歩んで参りました。その歩みの中で、放送大学とのご縁は非常に深く、2002年から客員助教授、そして2003年5月から2010年3月までは客員教授として、かつてこの山形学習センターで多くの皆様と共に学ばせていただきました。

このたび、16年ぶりにこの場に身を置く機会をいただき、懐かしさと共に、新たな学びの交流への期待に胸を膨らませております。かつての任期中、放送大学で学ぶ高い志を持った学生の皆様や、多様な知を体現する諸先生方との交流を通じて、私は「リベラルアーツ」の圧倒的な重要性を再認識いたしました。

私自身の研究を振り返りますと、2001年に山形大学大学院医学系研究科博士課程へ入学し、2005年に修了するまでの歳月は、臨床現場で抱き続けてきた「人間にとっての『作業(Occupation)』とは何か」という長年の疑問に一つの解を見出す、極めて重要なプロセスとなりました。この経験は、単なる医学的知識に留まらず、哲学や文化人類学といった学際的な視点を持つことの重要性を私に教えてくれました。

現在の私の主な研究テーマは、作業療法が持つ「社会的な力」の検証です。具体的には、パーキンソン病をお持ちの方々が、余暇活動という能動的な営みを通じて病期の進行を予防するメカニズムの構築や、

児童発達支援・学童保育といった教育・福祉の現場における作業療法(OT)コンサルテーションが、子どもたちやご家族、そして支援スタッフのWell-being(幸福感)にいかに関与するかを探求しています。また、現代社会の課題である産業メンタルヘルスにおいて、労働者の「作業」を調整することで生産性と心の健康を両立させる、作業療法の新たな社会実装にも取り組んでおります。

私は今、作業療法という知見を、単なる治療技術ではなく、人々が幸せに生きるための基盤となる「生活のOS(Life OS)」として、社会の中に「製品化(正式なサービス化)」していくことを使命としています。そこには、レヴィ=ストロースの説く「ブリコラージュ(寄せ集めの知恵)」や「贈与論」といった文化人類学的な視点が不可欠であり、これこそが私が放送大学で学んだリベラルアーツの精神と深く響き合うものです。

放送大学で学ぶ皆様は、それぞれの人生という現場において、自らの「知」を更新し続けている探究者です。私の専門とする作業療法学や哲学、そして「一般社団法人日本OTイノベーション機構あからん」での活動を通じた知見が、皆様の豊かな学びをさらに深める一助となれば幸いです。

共に語り合い、新たな知の可能性を切り拓いていくことを、心より楽しみにしております。

藤井 浩美

山形県立保健医療大学
教授
専門: 作業療法学
作業活動学



学びのサロン

「日常生活を科学する～「できる」から「私らしく生きる」へ～」
日々の生活を「人・環境・作業」の相互作用から科学的に紐解き、
私たちが自分らしく生きるための日常のあり方を探求します。



2026年度 山形学習センター客員教員紹介



荒木 志伸

山形大学学術研究院
教授(学士課程基盤教育機構)
専門: 日本考古学

専門は日本考古学です。東北地方が主な研究フィールドで、奈良・平安時代の出土文字資料や、山寺立石寺、出羽三山、松島瑞巖寺・雄島で江戸時代の石造文化財の調査を行っています。今年で放送大学の客員も5年目となりました。サロンでは石造物に関わる内容を扱いますので、興味のある方はぜひ気軽にご参加ください。また、学習相談もお待ちしております。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

学びのサロン

「身近な石碑を読む～山形の歴史を発見する～」
いつだれが何のために石碑を建てたのか。身近な石碑、山形特有の石碑を取り上げ、石碑のどこに何が刻まれているかを一緒に楽しく学びます。



臼杵 毅

山形大学学術研究院

教授(理学部)

専門:物質科学・材料科学・物理化学

客員教員として2年目の勤務になります。山形大学では理学部に所属しており、様々な物質の機能や性質を実験的に明らかにする研究を行なっています。中でも、特殊なガラスや液体などを研究対象としており、国内外の大型実験施設での実験を通して、それらの持つ特異な性質がなぜ生じるのかについての謎解きにチャレンジしています。世の中には不思議な物質が沢山あります。そしてそれらに関わる物理や化学や数学があります。そんな世界を皆さんと共有できたらと思っています。

学びのサロン

「現代社会の問題点と科学技術」

科学技術の活用が社会問題を引き起こしその解決のため科学技術を活用する。両者が相互に影響を及ぼし発展する関係について考察します。



小泉 有紀子

山形大学学術研究院

教授(人文社会科学部)

専門:英語学・心理言語学・英語教育

こんにちは！ 客員教員として今年度で4年目となります。私の専門分野は英語学(心理言語学や英語教育)です。人間の言語理解のメカニズムや、英語の学習法・指導法に興味を持っています。昨年の学びのサロンでは「山形を英語で紹介しよう～Explain Yamagata in English!～」と題し、日本や山形の文化や名所について英語で紹介する練習をしました。英語が苦手と感じていても、準備をしっかり行えば自分の知っていることを英語で伝えるのは難しくはありません。今年も一緒に学んでいきましょう。

学びのサロン

「英語でプレゼンをしてみよう」

興味のあるトピックについて英語で簡単なプレゼンテーションを作ることを目標とします。英語力は問いません。お待ちしております。



河合 輝久

山形大学学術研究院

准教授(教育学部)

専門:臨床心理学

専門は臨床心理学(こころの問題について、実践や研究でわかったことを用いて支援に応用する心理学の一分野)です。臨床心理学の実践活動では、対話を通して相談にやってくる方とともにその方の困りごとを明らかにしていき、対処していきます。つまり、協働関係が基本的かつ重要となりますが、このような姿勢や態度は本学における学習相談でも心がけていることです。学習を進めていく中で、時に行き詰ったり、第三者の意見を聞いてみたかったり等する機会もあることと想像します。そのような時にはどうぞお気軽にご相談ください。みなさんの学びを深める一助になればと考えております。

学びのサロン

「心理援助の専門職によるカウンセリングを知る」

カウンセリングとは「何を目的に誰に何をするのか」、「どんな意味があるのか」等について書籍を輪読して学んでいきます。



半田 直子

山形県立保健医療大学

准教授

専門:看護学

私の専門領域は看護学で、看護の基礎づくりをしています。病気やケガで普段の生活ができなくなった患者さんや在宅療養者の方を、確かな知識と技術で支える看護技術が専門です。放送大学山形学習センターに勤務して5年目となりました。皆様が学習を進める中で感じた疑問や問いを一緒に考えながら私も学んでいきたいと思っています。学ぶことで世界は広がります。今まで知らなかったことが「わかった!」その喜びを放送大学で実感してください。

学びのサロン

「カラダのしくみと健康づくり」

カラダのしくみを学びながら健康づくりをしませんか。体験コーナーもあります。

- 客員教員及び所長が学生からの学習に関する様々な相談に応じています。(要予約・1時間以内)
- ゼミ形式で気軽に学び合える「学びのサロン」を開催しています。全日程参加を基本としますが、途中からの参加も可能です。(受講料無料・単位にはなりません)
- 詳しくは、山形学習センターのWebサイトをご覧ください。



2025年度 第2学期 学位記授与式を開催しました

2025年度第2学期学位記授与式を2026年3月28日(土)に山形学習センター(山形SC)101教室において開催しました。

山形SCからは、教養学部の24名が学士(教養)を、大学院文化科学研究科の1名が修士(学術)の学位を取得され、当日は出席された11名の皆さんに、山本陽史所長から一人一人に学位記が授与されました。

また、放送大学では、全てのコースを修了された学生に「放送大学名誉学生」の称号を付与する制度があり、この度、遠藤高好さんに付与され、当日は賞状と記念品(アカデミックストール)の贈呈がありました。

山本所長からは式辞で、卒業生が長年に渡りご努力され学位を取得されたことに、お祝いと労いのお言葉があり、また、山形同窓会の柳澤卓代表からもお祝いのお言葉がありました。

様々な苦労や困難を克服されご卒業、ご修了された皆様、誠におめでとうございます。皆様の晴れやかな姿が全科履修生の目標の一つになっています。皆様の今後ますますのご活躍をお祈りいたします。

【教養学部】

生活と福祉コース	3名
心理と教育コース	10名
社会と産業コース	2名
人間と文化コース	5名
情報コース	1名
自然と環境コース	3名

【大学院文化科学研究科】

臨床心理学プログラム	1名
------------	----



学位記授与式を終えての集合写真



卒業生・修了生体験談

「自己の活性化の起爆剤に」

生活と福祉コース 佐藤 ゆかりさん

私が放送大学に入学したきっかけは子供の受験でした。親として怠けた姿を見せられないという観念が芽生え、勉強の大変さも辛さも努力も一緒になって頑張れば…との思いからでした。

フルタイムでの仕事、家事・子育てと、実際は苦労の毎日でした。2、3度テキストを読んでも学生時代のように中々覚えられず思考力・記憶力の低下に落胆しつつも、成長実感が得られているようでした。「学び」とは知財を積むだけでなく自己充実感と達成感を育み、人的資産を高められるものなんだ、と改めて気づきました。

2年間みっちり勉強させていただき、この度卒業の運びとなりました。仕事面で目標が出来ましたので、もう一踏ん張り自分を活性化できるよう励みたいと思います。

「続く学びの歩み」

心理と教育コース 佐藤 佳純さん

種田山頭火の句「分け入っても分け入っても青い山」のように、放送大学での6年間は果てしない山道を歩むような日々でした。社会人としての働きながらの学びは決して容易ではなく、仕事の繁忙期やレポート提出が重なる時期には、深夜まで課題に取り組み、そのまま出勤することも。体調を崩して諦めそうになったこともありましたが、山頭火の句を思い出し、一步一步前進することの大切さを実感してきました。学習センターのご支援のもと取り組んだ面接授業で得た達成感、大きな喜びとなりました。自分のペースを守って勉強を続けてきたものの、特別に勉強のコツや時間の使い方が身についたという実感はありません。日々の積み重ねを続けてきた結果、気づけば卒業にたどり着いていた、というのが正直なところ。今後は継続入学で情報系の科目にも挑戦する予定です。社会人の学びは簡単ではありませんが、その道のりこそが人生を豊かにすると信じています。

「共に学ぶ」

心理と教育コース 奥田 祐月さん

私は、高校を卒業後すぐに放送大学に入学しました。最初は自分自身で理解して学習することが難しく、心が折れそうになりました。周りに放送大学の仲間がほぼいなかったもので、悩みを共有できる人がいませんでした。初めての面接授業に参加した時に、思い切って「どこのコースに所属していますか?」と話しかけました。同じ所属コースの人からの勉強方法を聞いて情報共有を行い、別の所属コースの人からは自分が全く知らない分野の知識を教えていただきました。不安だった心が一気に晴れて、学習に前向きに取り組んでいけるようになりました。私が出会った学生たちは、年齢やこれまで歩んできた道のりがそれぞれ違いました。それでも、学びあう仲間としてお互いがお互いを尊重し、共に成長していけるのだと、この4年間で感じていました。この放送大学で出会った方々に感謝し、新社会人として今まで教えていただいたことを実践していきたいです。

「学びそのものを楽しむ」

人間と文化コース 佐藤 洋子さん

放送大学の扉を叩いたのは19年秋、科目履修生となり学習センターで試験を受けたのが20年1月のこと。その後始まったコロナ禍で自宅試験になったことは私にとっては幸いだった。少なくとも試験のために通わなくてもいいことはありがたかった。酒田市から車で2時間かけての面接授業、前半は日帰りで、後半はホテルに一泊で時間も金銭も多くかかった。それでも先生方の情熱を感じる授業は、有り余る程大きな学ぶ喜び、楽しさを教えてくれた。大好きな歴史を学びたくて「人間と文化コース」を6年かけて卒業し、先日古希を迎えた。自コース以外の科目も学んでみるとどれも興味深く、全てが世の中の動きに連動していると思ったし、疎かった世界情勢の歴史や知識を得たことで、新聞やテレビの情報に目を向けるようになり理解が深まった。継続入学し、次は「社会と産業コース」に挑む。日々の生活も大切にしながら、焦らずじっくりと、学びそのものを楽しんで続けられたらと思っている。

「人間は考える葦である」

人間と文化コース 今野 桃花さん

両親からの勧めで入学した放送大学でした。

はじめは転職のため、大卒資格取得の為の入学でした。しかし、現在の職に関連する科目や興味を持った科目を受講しているうちに、知識を得ることの楽しさに気づきました。そして同時に、短大卒業後から自分が思考をやめていたことに気づきました。流れてくる情報を受け入れ、周りの考えに同調し、考えることをやめていたのだと思います。

昨今ではAIの発達などにより、便利な世の中になりました。スマホで調べものをして、まず出てくるのはAIの概要。ヒットした膨大な情報をわかりやすくまとめてくれる。しかしそれが正しいとは限らず、間違っている場合も多い。それに気づくのは自ら調べた人だけ。思考をやめる恐ろしさを、私は実感しました。時代の大きなうねりの中で、人間はどう生き延びていくのか。自由に選択することができるこの世の中で、考えることをやめ、ただ流されるのは楽なのかもしれません。けれど私は思考をやめず、自らの意思で選択していくために学び続けたいと思います。

「学びは心の宝もの」

自然と環境コース 鈴木 アツ子さん

明治生まれの両親は体が衰えても豊かな人間性を持ち続けて家族を優しく包み込んでくれました。在宅介護で授かった思いを胸に両親から導かれるように、平成14年私は学校司書から高齢者介護施設への転職と長年の念願だった放送大学に科目履修生として入学しました。私はパート勤務が長かったので「70歳まで」仕事の合間に行った本の読み聞かせや音楽療法のボランティア活動は思い入れが深く、沢山の笑顔に癒されました。

最初の履修科目は高齢者の心と体でした。大学の授業に不安が有りましたが共感しながらすんなりと心に納まり、学ぶ楽しさと学業を続ける自信に成りました。その後生活と福祉専攻に切り替え、体系的に学ぶために大学のエキスパートプランを活用して、健康福祉指導、福祉コーディネータ、食と健康アドバイザー。発達と教育専攻では心理学基礎プランなど各プランの認証を取得して充実した達成感を経験しました。年齢を重ねながら学び方はゆっくりと深く変化して来ました。この度皆様のお陰で5コース修了出来ました。最後に残った情報コースは情報手段が旧態依然の私には高いハードルですが、80歳を目前にして学生として学び続けられる幸せに感謝しながらこつこつ歩みたい。

「生きるということは学ぶこと」

大学院臨床心理学プログラム 倉田 裕也さん

とても身近にあるけど、どこか遠くにあるようにも映る心を扱う仕事に、困難さを感じて煩悶する日々を過ごしていました。「私」は「私」として存在するものの、「彼」あるいは「彼女」との関わりの中で、「私」という存在が溶けていくような感覚を覚えることとその意味を考えながら、それでも「私」は捨て去ることはできず、逃げることもできませんでした。何かに所属し、誰かと関わることは避けられない人生に、意味を見出すことが人情というものですし、十人十色の意味と向き合う日々には責任が伴います。「彼」あるいは「彼女」と関わりの中で、「私」自身とも向き合い続けていくこととなりますが、放送大学での2年間は「私」の基底の一部となり、今後も様々な場面で思い起こされ、学びを深めていくことになると思います。貴重なご縁を賜りまして、ありがとうございました。



面接授業・ライブWeb授業探訪

2025年度の面接授業の実施状況

「化粧品学」 野々村 美宗 先生（山形大学）

スキンケアやヘアケアなどの化粧品の成分や働きを、皮膚や毛髪の構造も含めて学習しました。化粧品の成分表示から化粧品の特性を推定することを目標に、実際の化粧品に触れる実習などを通して授業を行いました。受講した学生からは、「化粧品について今まで疑問に思っていることがわかった」「普段使っている化粧品の効果を成分から知ることができた」と大変好評でした。

野々村先生には2026年度第2学期に『化粧品の化学』という授業を開講していただく予定です。



2026年度第2学期の面接授業・ライブWeb授業紹介

2026年度第2学期には、山形にゆかりのある科目も含め、多彩な18科目を開講する予定です。関心のある科目を受講してみませんか。

いくつかご紹介します。

「クマ問題を考える」 田口 洋美 先生（狩猟文化研究所）

近年問題になっている「クマ問題」について、環境史と社会文化環境学の立場から考えます。人間社会と野生動物の関係に興味がある方におすすめです。

「多文化共生時代の日本語」 内海 由美子 先生（山形大学）

近年課題となっている、外国出身者との共生について、学びます。外国人との対話に必要な「やさしい日本語」について考えてみませんか？

「新聞活用術（山形新聞連携授業）」 山本 陽史 所長（放送大学山形学習センター）

授業の第1回と第2回に山形新聞の記者を招き、講話をしていただきます。新聞の作り方や取材の方法などを学び、正確な情報にアクセスする方法を学びましょう。

「オーケストラと劇場文化」 西濱 秀樹 先生 他（公益社団法人山形交響楽協会）

山形交響楽団を題材に、オーケストラ運営の基礎知識や劇場文化について学習します。授業内での公演の鑑賞や、現役の指揮者・演奏者からの講話を通して、オーケストラについて理解を深めましょう。

「ヤマダイミズアブ循環学」 佐藤 智 先生（山形大学）【ライブWeb授業】

本授業では、山形大学発の資源循環プロジェクト「ヤマダイミズアブ」を題材に、アメリカミズアブを活用した新しい循環型社会の取り組みについて学びます。環境問題やSDGs、地域活性化、バイオテクノロジーに関心のある方はもちろん、「昆虫が社会課題の解決にどう役立つのか」を知りたい方にもおすすめの授業です。



2026年度 第1学期入学者の集いを開催しました

今学期、山形学習センター(山形SC)には継続入学の方を含め157名の方が入学され、4月11日(土)に山形SC講義室において、28名の入学者の皆さんに出席いただき、2026年度第1学期入学者の集いを開催しました。

初めに、放送大学岩永雅也学長からの入学者へのメッセージの上映があり、引き続き、山本陽史所長から、入学者の皆さんにお祝いのお言葉がありました。

その後、ガイダンスとして、山形SCの利用方法や修学上の留意事項等について、山形SCのWebサイトやシステムWAKABAの画面等も紹介しながら確認しました。入学者の皆さんも今後の学習に向け理解を深めることができたようです。

最後に、山形SCに所属する5つのサークル(ゆうがくの会、英語講読会、国文学を読む会、パソコンクラブ、書道サークル)の代表者の皆さんから、各サークルの紹介と入会のご案内がありました。

皆さん、山形SCで楽しく学びを深めていきましょう!



お知らせ

単位認定試験に向けての研修会を開催します

1学期Web単位認定試験が下記日程にて実施されます。

実施方法	出題形式	試験日程(郵送試験は提出期間)
Web試験	択一式科目	7月14日(火)9:00~7月22日(水)17:00
	記述式・併用式科目	7月14日(火)9:00~7月18日(土)17:00
郵送試験	すべての出題形式	7月14日(火)~7月18日(土)必着

山形学習センターでは、初めてWeb単位認定試験を受験する学生の方を対象に体験会を個別的に下記の日程で開催します。所要時間は概ね30分を予定しています。

【体験会日程】

- ①2026年7月 9日(木)10:30~16:00(随時)
- ②2026年7月10日(金)10:30~16:00(随時)
- ③2026年7月11日(土)10:30~16:00(随時)

※参加を希望される方は、事前に電話かメールにて予約をお願いします。

【お申込み先】

電話:023(646)8836 メール:ymg-sc@ouj.ac.jp

※なお、Web単位認定試験操作を事前学習できる体験版が「WAKABA」で公開されています。

すでにWeb単位認定試験の体験をお済の方も、復習も兼ねて本番前までに操作方法等をご確認することを推奨します。



「単位認定試験通知(受験票)」の郵送を廃止します

2026年度から「単位認定試験通知(受験票)」の郵送を廃止いたします。ただし、単位認定試験を学習センターで受験される方については、引き続き受験票を郵送いたします。

※自宅等受験の方は、システムWAKABA「教務情報→単位認定試験時間割照会(学生用)」から当該学期に受験可能な科目をご確認いただけます。

※学習センター受験の方は、郵送で届く「単位認定試験通知(受験票)」でも当該学期に受験可能な科目をご確認いただけます。



「Webカメラによる本人確認を導入」(大学院科目のみ)

2025年度第1学期より、大学院科目受験のみで「Webカメラによる本人確認」を導入しています。
自宅受験を行うには、以下の条件を満たす必要があります。

- ①Webカメラでの撮影に同意していること
- ②Webカメラを所持していること(内臓カメラ可)
- ※【通信指導提出期間中(5月7日(木)～5月27日(水))】に、「Web単位認定試験体験版」で事前にカメラの動作確認を行ってください。
- ③システムWAKABAに顔写真が登録されていること
- ④「単位認定試験受験場所」が「全て自宅受験」または「記述・併用のみ学習センター受験」であること

※今学期は、前学期まで実施していた「Webカメラ撮影同意/所持・使用確認テスト」は実施しません。
特に「単位認定試験受験場所」の登録内容はシステムWAKABAにて必ずご確認ください。



第2学期の出願登録・科目登録を忘れずに

単位認定試験が終わると次学期の準備期間です。忘れずに登録しましょう。

《2026年9月末日で学籍が切れる方》

※科目登録申請の前に継続入学手続きが必要です

第1回期限:6月10日(水)～8月31日(月)

第2回期限:9月 1日(火)～9月 9日(水)

期間内に到着するよう余裕をもって申請してください。

《2026年10月以降も学籍が続く方》

※科目登録申請を行ってください

Web申請期間:8月15日(土)～8月31日(月)

郵送申請期間:8月15日(土)～8月30日(日)

2学期の面接授業も科目登録希望される方は8月15日～8月31日の間にWebより科目登録申請を行ってください。

お問合せ・資料請求・お申込みは

▶ インターネットでも出願や資料請求(無料)ができます! www.ouj.ac.jp

放送大学

検索

〒990-8580 山形市城南町1-1-1 霞城セントラル10階

放送大学山形学習センター

TEL 023-646-8836 FAX 023-646-8838

E-mail ymg-sc@ouj.ac.jp

<https://www.sc.ouj.ac.jp/center/yamagata/>

